



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

北茨城市の放射線対策

年間1.44ミリシーベルト以下を目標に

基本方針を公表

北茨城市では、10月3日に「放射線対策の基本方針」を明らかにし、Q&Aのパンフとともに概要説明を配布しています。方針によれば、市内の放射線量目標は年間1.44mSv（ミリシーベルト）以下。事故以前に測定した茨城県内の平均といわき市由来での数値を参考

に、市内の自然放射能を年間約0.44mSvと推計し、それに今回の原発事故の影響として国が定めた追加被ばく量1mSvとを合わせた線量です。ただし学校などでは、国の目標値である年間1mSv以下としました。この目標値で、市民の生活空間で毎時0.28μ

Sv（マイクロシーベルト）以下、学校などでは毎時0.19μSv以下をめざし、低減化対策をはかるつもりです。

さらに、市内で生産された農産物や水産物の放射線濃度を検査できるよう、市では独自に測定器を導入します。その受付方法などについては11月末以降、決定しだいお知らせするとしています。

※単位は、1000マイクロが1ミリです。

「ここが知りたい放射線」
会場いっぱい参加者

10月3日、市民ふれあいセンターで「放射線・放射能に関する講演会」



水祭り

(平潟港、10/1)

写真は平潟のOさん提供。「例年よりにぎやかだったよ」



お魚くわえた...

磯原駅ちかくのサザエさん。有名な主題歌そのままの出立ちです。



を市が開催しました。講師は、県原子力安全対策課・山田広次氏と北茨城市立総合病院・土井幹雄院長。

山田氏は、福島原発事故以降の市内・県内の放射線量データや農水産物の放射線検査測定値を報告しました。土井院長は「正しく知って、賢く恐れよう」と、放射線・放射能についての基礎知識をていねいに講義。関心は高く、会場いっぱいの参加者でした。

10月1日に東海村で開かれた「JCO事故を忘れない 9.30 茨城集会」に東海村の村上達也村長が寄せたメッセージを紹介します。

人の命を超える国策などはあってはならない

東海村長 村上達也

ついに危惧していた事故が起きてしまいました。昭和20年科学者中谷宇吉郎博士は人類の原子力利用に「地球上ではその創生以来堅く物質の究極の中に秘められていた恐るべき力。人間は開けてはならない蓋を開けてしまった」と警告していた、そのことを日本人自らの手で起こしてしまいました。この福島原発事故の前に1979年アメリカスリーマイル島原発で、そして旧ソ連チェルノブイリ原発で恐るべき事故が起き、多くの被曝者、犠牲者を出していたのに。そして東海村でも1999年にJCO臨界事故が起こり2名の死者、多くの一般市民の被曝者を出していたのに、なんてことでしょう。日本人はまたもやアジア太平洋戦争の過ちと同じ過ちを犯してしまいました。

福島原発周辺の人たち10万人強の避難者は、今もなお将来の当てもなく漂流しています。生活の基盤である故里を失い、子供の将来に心を痛め、何もかも失う恐怖に慄いています。「国破れて山河あり」、その山河は原発事故の後も

以前と変わらず昔のままなれど、そこで暮らしは営めぬ。こんな不条理が許されているのでしょうか。故里を迫られた人たちの心情は私の想像を絶するものがあります。この人たちの救済について細野原発事故担当大臣に問うたところ「損害賠償は誠意を持ってやる」という答えでした。損害賠償？カネで償える話ではないのに、なんと心のない回答でしょう。先の大戦で人間の命を紙屑のように扱い中国はじめアジア各国で2000万人以上、日本人380万の死者をもたらした戦前のエリート軍人の感覚と同じであります。人の命は「鴻毛よりも軽し」か。

原発政策は大上段に「国策」と言われています。そしてこれを議論するとき必ず出てくる言葉は、「経済はどうする」「産業は空洞化する」「便利快適な生活をやめるのか」

「夏場の電気はどうする」等々であります。実は今と同じことが、この国では31年前のスリーマイル事故後の時にも言われたようでもあります。日本人は「国益」「国威」という言葉に弱いようですが、今度こそ命、それは人間だけでなくあらゆる生きとし生けるものの命を第一に考えられるよう頭を切り替える時であります。日本人も福島原発事故から、原発による繁栄は「一炊の夢」でしかないことを知るべきであります。最後に、「9.30集会」がJCO臨界事故以後途絶えることなく毎年続けられていること、そのために払っておられる皆さまのご努力に敬意を表し、重ねて国内ばかりでなく世界中どこにおいても原発による犠牲者が今後出ないことを願い挨拶いたします。

